

栄光

説教・「先生と呼ばれること」 狩野牧師…1
特集・2022年の願い……………2
受洗おめでとう 竹内正代姉…5
按手礼報告…………5
明治学院だより……………6
牧師の書き込み…7
牧師の書斎から…7
長老のファイル…8

『先生と呼ばれること』

エレミヤ書23章16節～22節

マタイによる福音書23章1節～12節

狩野進之佑

説教

この箇所で主イエスは、人からどう呼ばれるかについて注意するようにと語りかけています。「先生」であれ、「教師」であれ、「父」であれ、「師」であれ、人はいかなる尊称も与えられない方が良く、仰います。この教えはマタイの教会の実情、あるいは理想を語ったものであるとも言われています。たとえばパウロは自分の建てた教会の人々に対し、「自分は父のよくなものだ」と主張します。新約の他の文書では教師、長老、使徒といった役割に言及されます。現代でもカトリックとプロテスタントで教会のスタイルや理想に違いがあるように、古代教会でも理想的な教会の姿には多様な考えがあったのです。そして、教師と呼ぶ

など語られるとしても、現実として教師は必要です。だからこの言葉を受け取りながらも、教会は2千年にわたって、神に御心を尋ね求めた上で、その承認を受けて教師を立て続けているのです。それと共にこの言葉は、私たちに厳しい警告を語るものとして立ち続けます。ファリサイ派のように見せかけだけのものにならないようにと、御言葉は忠告し続けています。伝道師としてこの教会に招聘を受けて、先生と呼ばれるようになりました。その最初の頃から常々、先生と呼ばれるのは嫌だなあと思っていました。私自身にそう呼ばれる資格があると思えないからです。それに相応しいものではないのに、「先生」と呼ばれる、

それが嫌なのです。外面だけで実態がなく、そのくせその地位に自分がしがみつくと日が来るのではあるまいかと、不安にさせられます。しかし、それでも私は「教師」なのであり、「伝道師」であり、また今「牧師」となろうとしていますが。実に嫌なことですが、そういう緊張した状況の中に身を置かなければなりません。「先生」を批判する主イエスの厳しい忠告をもろに受ける立場に立ち続けなければなりません。

先生と呼ばれるようになって、3年経ちました。自分ではあまり変わった気はしません。それでも、私は3年前より先生と呼ばれるに相応しい者となったと思います。そう思うのは、教師を育て、送り出す、この教会の使命が神の御心になつたものであると私は信じるからです。みなさんが私のために祈ってください、その祈りを必ず神は聞いてくださることを信じるからです。この若造をなお神が与えた伝道師・牧師であると信じて先生と呼んでくださる、それが大牧者キリストの御心によるものであると私も信じています。だから

ら呼び名にふさわしく、見かけだけで終わらないものに、自分が少しずつ変えられていることを信じます。

私たちは神が定めた呼び名によって、形作られるというところがあります。私たちはみな「キリスト者」という呼び名が与えられました。これも重たく身の丈に合わない呼び名です。実態はともかく、洗礼によってこの名が与えられるのです。この呼び名を担って何十年生きつつも、呼び名に相応しい自分は遠い気がします。それこそあの見せかけだけのファリサイ派と同じ過ちをなぞっているようにさえ思える。見せかけの「キリスト者」ではないかと不安になります。それでも私たちは自らを「キリスト者」と呼び続けます。神が定めたその呼び名に、少しでもふさわしいものになるために、身の丈に合わない呼び名を保ち続けたいと願います。「キリスト者」であり、あるいは「長老」であり、「教師」であり続けたいと願います。それにふさわしく自らを形作るために。

2022年 の願い



新しい年を迎えました。

今年も with コロナは続きますが、希望をもって歩んでいきたいものです。

あなたの新年の願いを教えてください。

私たちに大切なもの

石垣礼子

1年前の『栄光』を広げてみました。既にコロナ禍が1年以上続く生活が綴られています。いまだ本での行動制限は一時期よりかなりゆるめられた感がありますが、オミクロンなど変異株の登場で、未だ先の見えない毎日が続いています。

こんな状況のもと、電車を乗り継いで行く身には教会がさらに遠くなってしまいました。しかしそうした制限や困難は、かえって何が大切かをよりはつきりと認識する機会になったように思います。そしてウエブ礼拝が整えられ、環境があればどこでも出席できるようになったのはありがたいことでした。またそれだけに、教会での礼拝に実際に出るうれしさも以前より増したように思います。それはなつかしい我が家に帰るような気持ち。その準備をしてくださる皆さまには心から感謝をしています。

ます。

また同時に、礼拝の説教文のメーブルは心を鎮めたり、自らを励ますメッセージになったり、自身のむずかしい局面でとても大切なものになっています。

マスクをはずせない、孤独、孤立と背中合わせの毎日ですが、私はせめて日々の挨拶だけでも気持ちよくなりたい。声の大きさなどささやかな工夫をしています。

私たち家族は見知らぬ土地への引越しが多くありましたが、笑顔での挨拶はたとえ一言でも緊張感をやわらげ、孤独感から救ってくれました。挨拶の仕方は土地柄、文化によって異なりますが、その笑顔での挨拶は孤独、孤立から救ってくれるだけでなく、見知らぬ者同士が自らの安全を守る大切なツールでもあることを知りました。

たとえマスク越しであっても、お互いを気遣う気持ちが通じあえますようにと祈ります。

新年の感謝と希望

濃 芳人

「亡き父が私の年齢の頃は、どのような時だったか」と思うことがあります。

今年、私は還暦を迎えますが、父が還暦を迎えた頃、私はクリスマスに受洗しました。受洗した日の夜、アパートから電話で母に伝えましたが、父も喜んでくれたと思います。

当時、父はパーキンソン病を患い、体が不自由でした。葉が効いている時は、聖書を読むこと、テレビ映画のビデオ録画などを日課にしていました。父の所へ行く時、いつも笑顔で歓迎してくれました。父の録画した映画を家族で楽しむこともありました。

婚約式や結婚式など、人生の節目の時には、母に支えられて父も来て喜んでくれました。不自由ながらも、いつも家族を大切に思ってくれる父でした。

結婚して初めて住むアパートに

は、妻と私双方の両親も集まり、妻の父が私たちのために祈ってくれました。それぞれの両親は共にクリスマスチャンで、私たち夫婦を大切にしてくれます。主にあつて共に喜び、困難な時にも恵みのうちに支えられ、感謝しています。「今はどのような時か」と思うこともあります。

コロナ禍にあつて、様々な環境変化の影響により、生活の変化も生じています。新型コロナウイルス感染症が流行し、社会の失業率が悪化してから、私も失業していた時期があります。勤めていた会社社が、都合により解散したのです。現在は、自宅から約1時間で通勤できる食品メーカーで働いています。食品は初めての分野ですが、私の今までの経験が活かせるよう上司が配慮してくれました。この職場で、できるだけ長く働きたいと思っています。

今は仕事の都合で月に一度くらいしか日曜日は休めませんが、いつも主に立ち返り、感謝と喜びと希望をもって歩みたいと思います。

当たり前の日々を願う

仲山かおり

昨年は、コロナの感染拡大により、大変な年でした。私は病院で事務をしており、感染拡大により、入院できる病院が足りない中で、毎日、保健所や各病院から「コロナに感染した患者さんを入院させてほしい」と電話を受けていました。その時期は、コロナ病床は常に満床で、治療に必要な医療機器がなく、お断りするケースも多く、とても心苦しい日々でした。

病院の医療職の方々も、疲弊しており、何もできない自分に悔しい思いをしておりました。

私にできることは何だろうと、考えたとき、ふと心に光が射し、神様に祈ることでした。「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と

思いをキリスト・イエスにあつて守ってください」(ピリピ4:6、7)。

信仰によって、私自身、心身ともに救われ、コロナの感染拡大も収まってきました。

しかし、新たな変異株の出現で、新年も自粛モードは続き、先が見えない日々が続いております。

自身では、抗いようがなく、どうしようもないことですが、祈ることで、神に知っていたいているといふ確信は、私たちを平安に導いてくれます。

新年の願いは、昨年と変わらず、コロナ禍以前の当たり前の生活、マスクをしないで外出、人と接することができるようを送ることで、す。父母とも、リモートではなく、会いに行きたい、子どもにも会わせてあげたいです。

私がやることは、変わりません。毎日、神に感謝し、祈り続けることです。

「明るい表通りで」

三宅浩子

NHKで現在放送中の朝ドラで、英語を学ぶヒロインに夫が「この国とも自由に行き来できる。(中略) 僕らの子どもにはそんな世界を生きてほしい。ひなたの道を歩いてほしい」と言い残して出征する場面がありました。

要の曲になつてゐるのは「On the Sunny Side of the Street」。ジャズの名曲で、レイ・アームストロングや上白石萌音、世良公則が劇中で歌う、いわば応援歌のような曲です。1930年に作られたこの楽曲は、世界恐慌で沈みがちな人々を励ましヒットしたそうです。これまで多くのアーティストたちによってカバーされてきました。

さて、話は変わりますが、勤務している日本語学校で私が初めて新型コロナウイルスの話題を取り上げたのは2020年1月のことでした。中国の武漢で未知の病気が

が流行しているというニュースが、日本でも注目を集めていた頃でした。春節を機に世界中に広がり、パンデミックになるといふ予感が残念ながら現実となつてしまひ、マスクを外せない「新しい日常」が幕を開けました。

日本語学校は国の二転三転する方針に忠実に従ひ、徹底した感染予防策をとつて授業を続けています。今年の新入生はいないので、3月に卒業生を送り出したら、海外とのリモート授業が主流になるかもしれません。しかし、これは日本への留学を諦めて他国に留学先を変える若者が増えるきっかけにもなり、日本との国際交流を担う人材を逃す可能性もあります。

新型コロナウイルスの災厄から2年、今なお世界は苦しんでいます。2022年はこの疫病を克服できる年でありませうように。私は神様に心からそう祈ります。

“Life can be so sweet

On the sunny side of the street”

晴れ晴れとした気持ちで冒頭の曲を歌ひ、街を闊歩したいものです。できれば、マスクを外して…。

2022年の願い

角田 直

先日、東京パラリンピックで銀メダルを獲得した男子車いすバスケットボールチーム監督の及川晋平さんのお話を聞く機会があった。

前回大会終了後、東京大会でのメダル獲得に向けて、「絶対勝つ」ではなく「当然勝つ」というキーワードでチームの意識づけをしてきた、という。体格がモノをいう車いすバスケットでは、欧米のチームとの差は歴然。「絶対勝つ」では、やはり勝てなかつたときの言い訳が出てくる。言い訳を探すマイナードがどこかに隠れている気がする。「当然」という言葉を使うことで周りの人々、選手一人ひとりの意識を少しずつ変えて、チーム作りをしていったという。言葉の持つ面白さを感じたひと時でもあった。

自分の問題かもしれないが、願ひというものを考えるとき、大抵

のことはかなえないな、という類のような気がしている。「コロナが収束すればいいな」、「仕事がスムーズに進んでいくといいな」、「みんな健康であればいいな」。どれもその願ひに対して自分が何をするのか、アクションが明確でないことが多いと、話を聞きながら思つていた。もちろん、この原稿のことが頭の片隅にあつたから。

さて、本題の2022年の願ひであるが、*with* コロナの時代にも慣れ始め、そろそろ次のステップを見据えた生活をしたと思う。日々リモートワークが中心で一日中パソコンの前に座りっぱなし、一歩も家を出ない日もあるので、健康面での不安解消のために意識的に運動を継続し、規則正しい生活を送る。スマートウォッチで睡眠状態の記録を開始してみたりしている。多くの制約の中でできなくなつたことを数えるのではなく、今できることに目を向け、心身ともに安定した穏やかに充実した日々を過ごしたい。いや、「当然」過ぎそう。

受洗おめでとう

地域猫に誘われて

竹内正代

私は8年ぐらい前から、地域猫(昔の言い方では野良猫)を保護して数を減らす活動のお手伝いをしています。以前、品川区に住んでおりました時に、縁があつて活動を手伝うことになりました。それまで動物を飼ったことがなかったのに、猫を預かることになったのもこのような方々の依頼からでした。すぐに私と主人になつてくれて、家の中心人物となりました。この猫がとてもかわいかったので、私はすっかり猫好きになりました。今振り返ると、これは神様のお導きだったように思います。地域猫を保護する活動はTNR(Trap)、去勢(Neuter)、返還(Return)をセットであることを意味します。人が飼えそうな猫は、里親を探して譲渡し、里親がきちんと飼えているかの確認までを行います。

今、私の住んでいる赤堤には、このTNRの第一人者の方たちがいます。この町に私が引越してきたのも神様のご計画だったように感じます。

2017年12月12日に教会近くの山下西公園で、私の好きなエジプシアンマウによく似た猫を見つめました。この猫と公園で遊んでいると、必ず猫が私を先導するようになり、必ず猫が私を先導するの後ろを追って経堂北教会の前を通ることが多くなって、いつのころからか教会のことが気になるようになり、私は若いころ、聖書の話や漫画で親しみやすくなった本をよく読んでいました。それで自然に、聖書研究祈祷会に参加させていただくようになりました。聖書のお話を岸先生、狩野先生から聞くようになって、段々とキリスト教とこの教会に親しみをを感じるようになり、キリスト教徒になることを考えるようになりました。私は12月12日に岸先生から洗礼を受けました。私を教会へ誘ってくれた猫に出会ったのと同じ日であったことに何か不思議な導きを感じました。

按手礼報告

12月6日(月)の夕刻、西南支区の按手礼のため霊南坂教会に向かいました。狩野先生には家族それぞれがCSや青年会などで大変お世話になってきました。その先生の按手礼をお祝いすると共に、息子と同一歳の先生の大切な節目を見届けたい、同級生の母めいた気持ちもあつたかもしれませぬ。

パイプオルガンが讃美歌211-564「イエスは委ねられる」による前奏曲を奏でると、集う人々の思いがすっと収斂され、礼拝堂内の空気が整えられたような気がしました。説教では支区長の北川正弥牧師が、按手に際して2人の志願者へ望むことを説かれました。

復活のイエスの約束から、ペトロとヨハネが人々の上に手を置くことと聖霊が与えられた。その使徒時代から受け継がれてきた聖霊の働きがあるように、との願いを込めて先輩教師の方々が志願者に手を置かれる。しかし、聖霊は人がそれを信じる信仰、聖霊の働きを願う祈りによってこそ、主体的に動く人間を助けてくださる。だから

教師になる者は自分の欠けを受け止めた上で、誰よりも聖霊の働きを願わなければならない、というお話に、牧師として召され、神様のご用のために遣わされる覚悟の厳しさを感じました。

按手の様子は、「岸先生が真つ先に狩野先生の頭に手を置いて、最後に長山道先生がそつと置かれたのが印象的だった」と配信を見た娘が伝えてきました。カメラは祭壇横にあつたので、会衆席よりも良いアングルだったので。

按手後の証では、狩野先生がご自身の召命感、そして神様の御心を問い続けて按手を受けられた心境と、役割と責任を果たしていく決意を語られました。真に聖霊に満ちた式であつたと感謝です。

(原 由佳理)



明治学院だより

お久しぶりです。経堂北教会を
辞任してから約5年が経とうとし
ています。私は現在、白金にあり
ます明治学院高等学校の聖書科教
諭として仕えております。日本基
督教団の立場としては、東京教区
に籍のある教務教師となります。

明治学院は1863年創立の日
本で最も古いプロテスタントのキ
リスト教学校です。また明治学院
の神学部は、現在の東京神学大
学へと歴史の経緯の中で統合してい
ます。時々、説教者として教会に
招かれる際、明治学院中学高校と
勘違いされますが、白金は「高校
のみ」となります。明治学院中学
校は東村山にありまして、そこ
は中学校と東村山高校があります。

は男子よりも女子に人気の高校と
なっています。その理由は、自由
な校風と系列校の明学大への進
学、制服が可愛いということが挙
げられます。最近では、制服に女
子のストラップスの導入があったこ
とも話題になっています。

さて、明治学院高校のキリスト
教教育、学校伝道や生徒の様子に
ついて簡単にお話をいたします。
私が赴任したのは、最初の緊急事
態宣言と同時にあったので、通常
の明治学院高校の様子は、聞いた
話になることをご了承ください。
明治学院高校では、週2回のチャ
ペルでの礼拝がささげられます。
これはチャペルの収容人数が1学
年しか入らないことから、6日間
で各学年が2回ずつのローテーシ
ョンのためです。説教者は、各学
年のキリスト者の教員と学院牧師、
院長、非常勤の聖書科教師などで
担当します。外部の牧師が説教す
るのは、特別礼拝のみです。現在
はコロナ禍のため、2020年4
月から讃美歌は歌っておりません。
また緊急事態宣言下では、放送に
よる説教と祈りの礼拝でした。

聖書の授業は、各学年で必修と

なります。聖書科の専任教諭が1
人しかいないことから、各学年約
300人の生徒を全員担当するこ
とができず、2名の非常勤講師の
力を借りています。本校に宗教部
はなく、礼拝・アッセンブリー委
員会という教職員会議の選挙で選
ばれる人たちが、キリスト教関連
の職務を担当します。私は行事指
導部という文化祭(オリープ祭)
や体育祭、合唱コンクールなどの
職務を担いつつ、先程の委員会や
授業、クラス担任、PTAの聖書
教室や礼拝などの役割を受
け持っています。

生徒たちは、大多数が公
立の中学校から進学してき
ます。そのため、高校で初
めて聖書を手にする子ども
たちがほとんどです。けれ
ども1年間聖書の授業を受
けることで大変よく理解を
深めてくれます。また今年
度は、これまで履修希望者
が集まらず、一度も開講
したことがなかった3年生
の聖書演習という授業が成
立しました。他にも、今ま
で数名の生徒しか集まらな

かった有志の礼拝が数百名も集ま
りました。コロナ禍においても試
行錯誤の結果、明学では多くの生
徒たちが、聖書やキリスト教に親
しみをもっていきます。

高校生や大学生の若い世代も、
伝え方によっては、多くの人たち
が聖書やキリスト教に関心をもつ
ことに気がつかれます。学校で生
徒たちと関わり、福音を必要とし
ていることがよくわかります。高
校に入学して、「教会に行つてみ
たい」、「クリスチャンとして生き
たい」という生徒
もいます。折りが
良くても悪くて
も、御言葉を宣べ
伝え、福音のため
なら何でもするの
が大事です。そし
て、何より主への
深い信頼とイエス
様に対する徹底し
た集中、日々祈り、
御言葉に生きる伝
道者のすべてが用
いられると実感し
ています。

(上野峻二)

！ 牧師の書き込み

先月は随分色々なことがあった1ヶ月でした。按手札を以て教団の正教師となり、就任式を以て経堂北教会の牧師となりました。経堂北教会での働きも残りわずかなり、次の任地からの招聘についても動きのある1ヶ月でした。

神学校の最終学年、授業の中で招聘について取り扱われたことがありました。ひとつよく覚えているのは任期についてのことで、授

業を担当した教授から、教会が牧師に任期を定めるのは、神学的にも教団の制度との関係においても問題があると教えられました。学長から経堂北教会のことを紹介していたいたのは、確かその授業の翌週のことでした。授業の中で招聘や任期について学んで、なるほどと思われた直後でしたから、「伝道師の間3年間で牧師を育てて送り出す」という経堂北教会の方針を聞いてちよつと当惑したのを覚えています。

一応自分なりに答えを出そうと

つつ、一堂に会しての礼拝を待ち望みながら、ますますお互いを覚えて祈り、礼拝したいと思えます。

その週の土曜日、聖学院中高等学校PTAクリスマス礼拝に出席しました。駒込の学校を訪れたのは神学生時代の教育実習以来40年ぶりです。その時代から校舎が一新され、女子聖学院、小学校が併設されているため入口が分からず迷ってしまいました。「久保ツチ」と久保哲哉チャプレンは、「寒い、寒い」と言いながら保護者と礼拝を仕切っていました。800人収容の

してはみましたが、あまり論理的な答えは見つかりませんでした。しかしそれ以前から、とにかく示されたところにはどこにでも行くことと祈って決めていたので、その招聘条件を全うすることもまた御心であろうと信じて行くことにしました。振り返るにはまだ少し早い気もしますが、こうして経堂北教会に招かれたことは神様が備えてくださったものであるということとを素朴に思っています。コロナ禍への対応もそうですが、教会の主任担任教師となることを思った

講堂に70人の出席者でした。マスクを付け、密を避けるためバラバラに座っている会衆に「クリスマス・プレゼント」とちゃんと語りかけることができましたでしょうか。

クリスマス当日にこの原稿を書いています。まだ教会暦ではクリスマスシーズンは終わっていませんが、終わった気分です。ネットにアップされたイブ礼拝を所々見ています。たくさんさんのキャンドルが灯されイブの雰囲気一杯の中、パイオルガンの演奏、プロの音楽家の合唱、独唱、合奏が礼拝堂に

とき、3年前に比べて随分と視野が開けたように思うのです。同じように、この教会にとっても私を神からのものとして招き育てたことが神の備えた良いことであつたら本当に嬉しいことです。

先月は初めて聖餐式での司式を執行しました。細かな所作とか、次に何をやるかとか、考えているうちに式文を飛ばしてしまいました。このあたりもあと3ヶ月、課題としてもっと落ち着いてやっていけるようにしたいものです。

(狩野進之佑)

● 牧師の書斎から



12月5日礼拝後オンラインで礼拝に参加している方々とZoomで挨拶を交わすことができましたが、「音声なし」となってしまうしました。ニューヨーク、広島、大津、病室や家庭からの参加は嬉しいことでした。日曜日教会に集まって礼拝している私たちだけでなく、それぞれの場で礼拝している方がいらつしやることを改めて実感させられました。次回を準備し

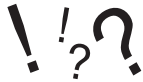
響きます。

女優の杏さんが母校の青山学院初等部のチャペルを訪れて、聖歌隊の小学生たちとクリスマス・キヤロルを合唱する動画を見ました。彼女も初等部時代聖歌隊のメンバーだったそうです。最後に彼女が「やっぱり讚美歌って1人じゃ歌えないんですね…誰か一緒に歌ってくれる人ぜひ募集します！」と言ったことが印象的でした。

クリスマスはもちろん、主日礼拝で共に賛美する兄弟姉妹がいることに感謝。

(岸 俊彦)

個人消息



長老のファイル



クリスマスおめでとうでございます。そして明けましておめでとうでございます。今年も主の御心に適う1年となることを願います。とはいえ、変異株の市中感染が増加傾向にあるため、礼拝出席も体調や周囲の状況を踏まえて、祈りをもつて慎重にご判断ください。

さて、今年度も残り3ヶ月となり、狩野牧師と過ごす期間も残り僅かとなりました。先生と初めて

掲示板



- 成人祝福式 1月9日(日) 礼拝後
- 世田谷地区一致祈祷会
1月23日(日) 午後3:00
於 カトリック松原教会
- 図書茶話会 1月30日(日) 礼拝後

編集後記



- ▽今年こそ免疫力を上げるために運動したいです。
そしてよく寝て、よく笑いたい！(酒井)

「栄 光」2022年1月号
日本基督教団 経堂北教会
〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-21-11
電話：03-3428-5029 / FAX：03-3428-5038
牧師：岸 俊彦 牧師：狩野進之佑
編集：栄光編集委員会
Email：kyodon@nifty.com
HP：http://kyodokita.life.coocan.jp

お会いしたのは、4年前のアドベント1週目のいわゆる「お見合い説教」でした。私と同学年のため楽しみにしていたら、聖書箇所としては初のヨブ記で、説教内容も随分重かったため、驚いたのを覚えています。しかし、着任されて歌やお菓子作りが得意な明るく親しみやすい先生と分かり、安心しました。CSミュージカルではフレイ・マキユリーを見事に演じきり、東神大や牧師界隈でちょっとした話題になったようです。残念ながら在任期間の半分以上が

コロナ禍で、通常の教会行事が行えず、交わりも限られました。しかし、説教や日々の牧会を通して先生の飾らぬ姿、謙虚に主とご自身の召命感と向き合われている姿を拝見し、多くのことを学ばせていただきました。感謝とともに、主任牧師として遣わされる新天地でのお働きの上に主の祝福と聖霊の執り成しを祈ります。

長老会では総合的な判断のもと、来年度は伝道師を招聘しないこととしており、4年ぶりに岸牧師のみの体制になります。コロナ

禍では初めてのことで。教職・長老会・教会員が一丸となり、来年度も着実に牧会がなされるよう祈ります。そして伝道師を育て、牧師として前線に送り出す当教会の役割は、再来年度以降に果たせればと願います。が、東京神学大学の来年度の入学志願者数は現状2名に留まり、大学運営、ひいては日本のキリスト教伝道にとって危機的な状況にあるとのこと。今後のそれぞれの伝道の業と歩みをどうか祈りに覚え、支えていただければと思います。(原良介)